滋賀県立精神医療センターデイ・ケア通信　　２０１８年　５月号

Shiny

滋賀県立精神医療センター地域生活支援部デイ・ケア
〒525-0072　滋賀県草津市笠山８丁目４―25
TEL 077-567-5011　FAX　077―567-5033

◆ 地域生活支援部・大門部長あいさつ

スターウォーズのスピンオフ作品、ハン・ソロを楽しみに待っている大門です。昨年度から今年度にかけて２つの大きな変化がありました。

１つは、２７年度からデイケアの通所期間を３年と設定したため、多くのメンバーが３月に卒業しました。４月からメンバーの数は少なくなり、少し寂しさを感じます。今いるメンバーは、みんなで協力しながら着実に力をつけていってください。

もう１つは、スタッフが変わったことです。これまでメンバーにとって、良きお母さん、おっと失言、お姉さんとして暖かく見守ってくれた小出さんに代わり、４月から山本さんが来てくれました。彼女の新たな力に期待しております。

加藤さん、渡部さん、小西さん、山本さんが今年度も思いっきり活躍してくれるので、大門はのんびりとポケモン GO のレベルアップに励みます。（現在レベル３３）

では、３０年度を頑張りましょう！

◆ 平成３０年度、デイ･ケア始動

４月５日より、今年度のデイ・ケアが始まりました。昨年度末で計 17 名のメンバーが卒業し、少しだけ寂しくもなりましたが、今年度もメンバーの皆さまおひとりおひとりのパワーで盛り上げていきましょう。

今年度も引き続き「どんどんやってみよう」をキャッチフレーズに活動し、さらに中身をバージョンアップしていきますのでお楽しみに！！

また今年度から、当センターデイケアは、精神障害者の就労および職場定着の促進を行うためのハローワークと連携した就労支援モデル事業の協力機関となりました。このモデル事業の実施は滋賀県内で初めての試みです。

この事業ではデイケアとハローワーク草津と連携し、以下のような就労支援を行います。

〇デイケアプログラムにハローワーク草津の職員が入り、就労に向けたプログラムを展開していきます。
〇対象者には、職業相談、職業ガイダンス等の就労支援サービスへの導入を行います。
〇就労後は、職場定着支援等のフォローアップ支援を実施します。

平成３０年度もパワーアップをしたデイケアをよろしくお願いします。

◆ スタッフ紹介

○　地域生活支援部部長　医師　大門　一司
○　作業療法士　加藤　郁子
○　看護師　渡部　良子
○　看護師　山本　飛鳥
○　精神保健福祉士　小西　亮

今年度より新たに、看護師の山本さんをむかえデイケアをスタートしています。

４月からデイケアに配属となりました山本飛鳥です。
異動前は病棟で勤務していました。
デイケアに来てからまだ１カ月弱ですが、メンバーさんもスタッフもみなさん優しく、受け入れてもらえるような感覚があり、とても心地よく感じています。
また、メンバーさんと関わらせてもらうことで毎日元気をもらっています。
まだわからないことばかりなのですが、早く色々なことを覚えていきたいです。メンバーさんに対して何ができるのかを探しながら関わらせていただきたいと思っています。
これからどうぞよろしくお願いします。

～平成２９年度の報告～

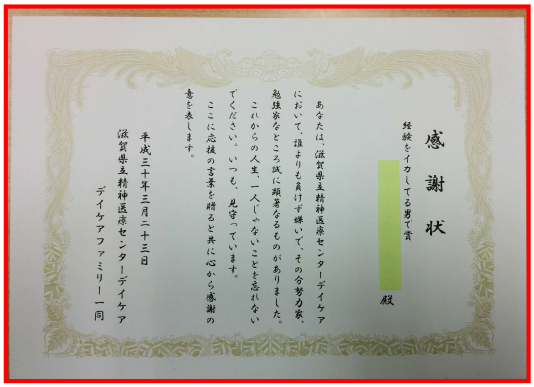
◆ デイケア修了式「かどでの会」

2015 年４月より当センターのデイケアは利用期間を３年と設定しました。そして今回その利用期間を設定してから初めて、デイケアを修了となったメンバーのための修了式を３月２３日に開催しました。

修了式「かどでの会」は現在デイケア利用中のメンバーが中心となり、２か月余りの時間をかけて企画、準備をしました。

当日は修了するメンバーとの団らんを楽しみ、メンバー作成の感謝状を渡し、最後には「３月９日」の曲とともに修了メンバーを送り出しました。

今回の修了式のために一生懸命準備をし、ステキな企画を考えてくださったメンバーの皆さま、ありがとうございました。



感謝状

経験をイカしてる男で賞

殿

あなたは、滋賀県立精神医療センターデイケアにおいて、誰よりも負けず嫌いで、その努力家、勉強家なところ誠に顕著なものがありました。

これからの人生、一人じゃないことを忘れないでください。いつも、見守っています。

ここに感謝の言葉を贈ると共に心から感謝の意を表します。

平成三十年三月二十三日

滋賀県立精神医療センターデイケア

デイケアファミリー一同

◆ 家族の会　特別回

３月７日(水)にデイケア家族の会特別回「社会の一員への道のり」が開催されました。デイケア家族の会自体は２ヶ月に一度のペースで開催されていましたが、今回は特別回として、デイケア OB と現デイケアメンバーのお２人にお話していただきました。

当日は家族だけでなく、デイケアメンバー１１名も参加され、総勢３８名とたくさんの参加者を前に、お二人とも発病に至った経緯やその当時の思い、苦しかったこと、病気と向き合ってきたこと、そして回復の過程について、それぞれの言葉でお話していただきました。

堂々とした発表に、参加されたご家族からは、「お二人のお話が本当に心に染みました。」「病気になっても、時間はかかっても、必ず良くなる。夢や希望は必ずあると思えました。」「本で読むよりも何倍もの、この病気のしんどさが伝わりました。」といった感想をいただけました。お二人が自身の経験をしっかりと振り返り言葉として伝えていただいたことで、病状が安定しない当事者を支えているご家族にとっては、大きな励みとなったかと思います。

2018年度　デイケアプログラム　（2018．4～2019．3）

デイケアは、「やってみよう」をキャッチフレーズに、メンバーが安心・安全を実感し、自主性の発揮を通して、早期の社会参加を実現するため、
メンバーの社会生活力の向上を目指します。

	月	火	水	木	金
AM	○　作って見つけよう ・手工芸 個別での作業活動。作品の完成後は「振り返りチェックシート」を用いて自己理解を深める。 ・Shiny作成／園芸 グループでの作業を共同して取り組み自己理解を深める。	○　君なら書ける ・書道 書道による表現活動 ○　表現する色あそび ・絵画 絵画（主に水彩画）による表現活動		○　どんどんやってみよう ・社会生活力トレーニング 身近な生活活動に目を向け、社会で生きていく力、人との付き合い方で必要なコミュニケーション力の基礎を高める。	○　どんどんやってみよう ・企画・運営 「社会移行に必要な力」について考え、その力が体験・体得できるような企画を考え、実施する。 協働して行う経験を積み重ねることにより役割分担とその責任を果たすこと、助け合うなど、社会生活を行う上で必要な事柄を学ぶ。
PM	○　ミュージックセラピー ・音楽療法 音楽活動を通して、自分の身体（呼吸や姿勢、重心など）を感じる。人との関係性の中で受信・発信・調和を感じたり表現したりする。 ○　てきおん ・発達障害専門プログラム 発達障害者専門プログラムを通して、発達の特性に気付き自己理解を深める。	○　ポップ・アップ・アップ ・リズム体操 リズムに合わせて体を動かすことやストレッチを通して、体力作りをするとともに、運動による爽快感を味わう。	○　へいおん ・ミニプログラム／自主活動 第1週：デイケア家族会 （へいおん休み） 第2週：発達障害の人が 上手く働く 第3週：生活の困りごと 第4週：身体を知ろう 発達デイ家族会ともに 第5週：企画実施	○　JOY　SPO ・スポーツ 運動を通して、心身のリフレッシュを目指す。	
	○　チャレラン				

★　6カ月に1回程度各プログラムで振り返りミーティング実施
★　個別の振り返りは3カ月1回、「デイ・ケア診療計画書・同意書」にて担当スタッフと見直す
★　木・金曜日の「どんどんやってみよう」の内容については、集団を見ながらプログラム構成を検討する